「調査研究」は

(キツネハウス主宰) **平井百合子**



りも続いた騒ぎは、結局駆除の決め手の問題に関わることになった。一年余を通じて広く報じられた。その時、ミを通じて広く報じられた。その時、ミを通じて広く報じられた。その時、ミを通じて広く報じられた。その時、

る時期を迎えている。
月日が流れ、今ようやく調査結果が出で終止符が打たれた。あれから三年ので、キツネの調査をやる、ということとなる科学的根拠が示されていないの

ていなかったのは「記事に書かれたら げている。ある記者は、報告書が渡され 告書が出てたんですか?」と首をかし に行ったところ、皆さんが「そんな報 状を提出しようということになった。 書は今年三月に出されることになって 室を主に行なった実態調査。この報告 情報等を集めたもので、もう一つは根 い点がいくつもあったので、 いる)よく読んでみると、 アンケート調査で全道のキツネの目繋 みた。 (調査は二種あり、一つはこの 課なら保護の立場かと思う人もいるか が行なう調査を指している。自然保護 されたアンケート調査報告書を読んで いだろう。果して結果はどう出たか? ような調査は、どこの部でも行なわな いるのだから、これを否定してしまう もしれないが、現実はそう単純ではな ではなくて、生活環境部の自然保護課 た調査というのは、その衛生部の調査 われているが、三年前の終止符になっ 従って、キツネの調査はそこでも行な その事を伝えるため道政記者クラブ 私は昨年何人かの仲間と、三月に出 エキノ対策は道衛生部が主体である。 道としてはすでに駆除を実施して 腑に落ちな 道に質問

> まず何よりも私は残念に思う。 い、世論の盛り上がりあっての調査ないに、その結果についてはマスコミにのに、その結果についてはマスコミにのに、その結果についてはマスコミにり、世論の盛り上がりあっての調査な

はない。 全道的な生息数は推定数にしても報告 については狭い範囲に限られており、 とって、これについて論じている。一 画が全道で何区画あるかという統計を 道の地図を五㎞四方の区画に分割、 にはふれていない。具体的には、北海 ンケートにより生息情報を得られた区 の広がりについて論じており、生息数 ていない。アンケート調査では生息地 点であった肝心の全道の生息数が把め 見い出せなかった。第一に、論議の争 想のように、少なくとも世論に求められ た科学的根拠として耐えられるものは 報告書の中味については、記者の予 根室の実態調査の方でも、生息数 ァ

できるものではないのだ。報告書の摘できるものではないのだ。報告書の摘なば、前述の区画数が過去の区画数用いて、今回の区画数が過去の区画数用いて、今回の区画数が過去の区画数が過去の区画数が過去の区画数が過去の区画数が過去の区画数が過去の区画数が過去の区画数が過去の区画数に関して、過去の調査方法がまるで違い、とても比較に

ていた。じく根本的におかしい事柄が並べられ要には、こればかりではなく他にも同

得力をなくしてしまったといえよう。 得力をなくしてしまったといえよう。 はどの結果を選び取るか、つまり摘要 に何を特筆するかという選択性の中に に何を特筆するかという選択性の中に に何を特筆するかという選択性の中に がら言われてきたこと「増加が著しい」 から言われてきたこと「増加が著しい」 から言われてきたこと「増加が著しい」 がら言われてきたこと「増加が著しい」 があるために摘要 はどの結果を選び取るか、つまり摘要 はどの結果を選び取るか、つまり摘要 はどの結果を選び取るか、つまり摘要 はどの結果を選び取るか、つまり摘要 はどの結果を選び取るか、つまり摘要

ネに関するデータ集めに力が注がれて にいる子ギツネを捕ることになりそう ってきたが、加えて今後は、春期巣穴 というと、これまでは冬期間成獣を捕 これを駆除の免罪符にするのだろうか。 なってもしかたがないのかもしれない 査の目的ならば客観性に乏しいものに 物でもあり、種々社会問題を提起して に適切に対処するため」と。これが調 いる。キタキツネをめぐる様々な問題 「近年、農畜産業への被害が急増して 査目的について次のように書いてある。 おり、またエキノコックス症の媒介動 さて現実に駆除はどうなっていくか アンケート調査報告書の冒頭には調 今回の両調査でも、巣穴や子ギツ

でいくのと同じである。 まかくのと同じである。 まいくのと同じである。 関えれば放射能いっては殺してきた。例えれば放射能いっては殺してきた。例えれば放射能の実験のようになしくずし的に文句を がっているのと同じである。

千歳市在住)

